

平成21年4月30日公表

## 平成20年海面漁業・養殖業生産統計(概数) (鹿児島県)

—— 海面漁業はかなり減少 ——

### 【調査結果の概要】

平成20年の鹿児島県における海面漁業・養殖業の生産量は14万5,585 tで、前年に比べ9,829 t (6.3%) 減少しました。

- 海面漁業の漁獲量は8万1,985 tで、あじ類及びさば類等が増加したものの、いわし類、まぐろ類、いか類及びかつお類等が減少したことから、前年に比べ8,630 t (9.5%) 減少しました。
- 海面養殖業の収穫量は6万3,600 tで、のり類、まだい及びその他の魚類等が増加したものの、ぶり類等が減少したことから、前年に比べ1,199 t (1.9%) 減少しました。

図1 海面漁業・  
養殖業生産量の推移

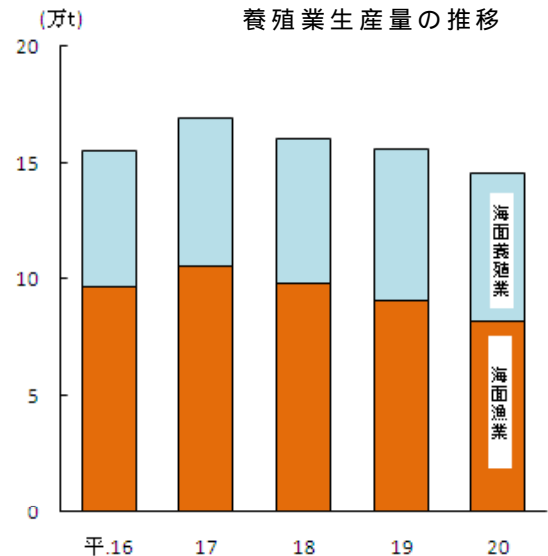


表 海面漁業・養殖業生産量

区分	平.20 t	19 t	対前年差 t	対前年増減率 %
海面漁業・養殖業計	145 585	155 414	9 829	6.3
海面漁業	81 985	90 615	8 630	9.5
海面養殖業	63 600	64 799	1 199	1.9

### 【解説】

#### 1 海面漁業

##### (1) 主要漁業種類別漁獲量

- ア まき網の漁獲量は2万2,935 tで、前年に比べ625 t (2.7%) 減少しました。これは、主としてあじ類、さば類及びかつお類は増加したものの、いわし類が減少したためです。
- イ はえ縄以外の釣の漁獲量は2万2,075 tで、前年に比べ3,217 t (12.7%) 減少しました。これは、いか類及びかつお類を中心にほとんどの魚種が減少したためです。
- ウ はえ縄の漁獲量は1万6,490 tで、前年に比べ3,083 t (15.8%) 減少しました。これは、さめ類は増加したものの、まぐろ類をはじめとするほとんどの魚種が減少したためです。

エ 船びき網の漁獲量は6,591 tで、前年に比べ2,492 t (27.4%)減少しました。

これは、主としていわし類が減少したためです。

オ 定置網の漁獲量は6,371 tで、前年に比べ964 t (17.8%)増加しました。

これは、かつお類、たちうお及びいわし類等は減少したものの、あじ類、さば類及びその他の魚種等が増加したためです。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア まぐろ類の漁獲量は1万5,357 tで、前年に比べ3,760 t (19.7%)減少しました。

これは、主としてはえ縄及び一本釣で減少したためです。

イ いわし類の漁獲量は1万3,658 tで、前年に比べ6,717 t (33%)減少しました。

これは、ほとんどの漁業種類で減少したためです。

ウ さば類の漁獲量は1万16 tで、前年に比べ1,163 t (13.1%)増加しました。

これは、漁獲のあるほとんどの漁業種類で増加したためです。

エ いか類の漁獲量は9,850 tで、前年に比べ1,499 t (13.2%)減少しました。

これは、主として釣で減少したためです。

オ かつお類の漁獲量は9,137 tで、前年に比べ810 t (8.1%)減少しました。

これは、主としてまき網で増加したものの、釣で減少したためです。

カ あじ類の漁獲量は6,382 tで、前年に比べ1,902 t (42.5%)増加しました。

これは、漁獲のあるほとんどの漁業種類で増加したためです。

2 海面養殖業

(1) ぶり類の収穫量は5万8,565 tで、前年に比べ1,836 t (3%)減少しました。

これは、廃業があったこと、魚価の低迷による出荷調整及びもじゃこ価格の高騰により種苗導入量が減少したためです。

なお、全国に占める割合は37%で、平成5年以降、16年連続して1位となっています。

(2) のり類の収穫量は1,062 tで、前年に比べ300t (39.4%)増加しました。

これは、生育の悪かった前年産に比べ作柄が回復したためです。

図2 主要漁業種類別漁獲量の推移

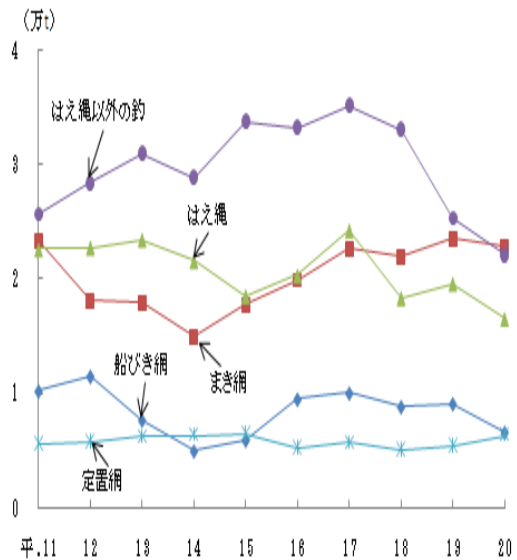


図3 主要魚種別漁獲量の推移

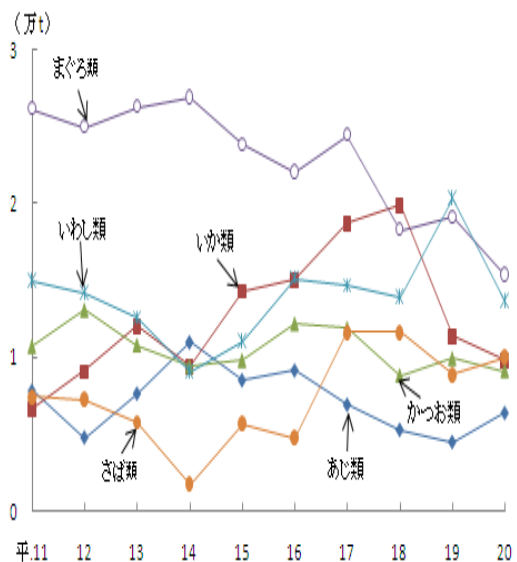
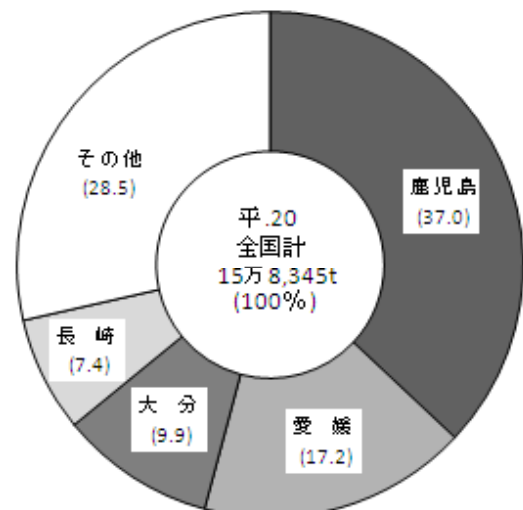


図4 ぶり類収穫量の県別割合



【統計表】

1 海面漁業主要漁業種類別漁獲量

区 分	平.20	19	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
計	81 985	90 615	8 630	90.5	100.0
小型底びき網	622	612	10	101.6	0.8
船びき網	6 591	9 083	2 492	72.6	8.0
まき網	22 935	23 560	625	97.3	28.0
刺網	2 550	2 791	241	91.4	3.1
定置網	6 371	5 407	964	117.8	7.8
その他の網漁業	2 828	3 071	243	92.1	3.4
はえ縄	16 490	19 573	3 083	84.2	20.1
はえ縄以外の釣	22 075	25 292	3 217	87.3	26.9
上記以外の漁業	1 523	1 227	296	124.1	1.9

2 海面漁業主要魚種別漁獲量

区 分	平.20	19	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
計	81 985	90 615	8 630	90.5	100.0
まぐろ類	15 357	19 117	3 760	80.3	18.7
かつお類	9 137	9 947	810	91.9	11.1
いわし類	13 658	20 375	6 717	67.0	16.7
あじ類	6 382	4 480	1 902	142.5	7.8
さば類	10 016	8 853	1 163	113.1	12.2
いか類	9 850	11 349	1 499	86.8	12.0
上記以外の魚種	17 584	16 494	1 090	106.6	21.4

3 海面養殖業主要魚種別収獲量

区 分	平.20	19	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
計	63 600	64 799	1 199	98.1	100.0
ぶり類	58 565	60 401	1 836	97.0	92.1
うち、かんぱち	29 551	30 984	1 433	95.4	46.5
まだい	704	629	75	111.9	1.1
ひらめ	637	642	5	99.2	1.0
くるまえび	472	504	32	93.7	0.7
のり類(生重量)	1 062	762	300	139.4	1.7
上記以外の魚種	2 160	1 860	300	116.1	3.4

## 【統計表の見方等】

- 1 統計数値については、単位未満を四捨五入したため、計と内訳は一致しない場合があります。
- 2 表中に用いた記号は以下のとおりです。  
「 」・・・負数又は減少したもの

## 【調査の仕様】

- 1 調査の目的  
本調査は、海面の漁業・養殖業の生産に関する実態を明らかにし、水産行政の基礎資料を整備することを目的としています。
- 2 調査の対象  
本調査は、鹿児島県内の水揚機関、海面漁業・養殖業経営体を調査対象としています。
- 3 調査期間  
平成20年1月1日から12月31日までを調査期間としています。  
なお、遠洋漁業等で年を越えて操業する場合は、航海の区切りとなる日の属する年に含めて調査を行っています。
- 4 調査方法  
調査員が水揚機関又は海面漁業経営体に調査票を配布し、自計申告する方法、又は調査員による面接聞き取りの方法や、漁獲成績報告書の取りまとめによって行います。
- 5 用語の説明  
海面漁業とは、海面において利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として行う漁業生産の行為をいいます。  
海面養殖業とは、海面又は海面以外に設けられた海水面において、人工施設を施して、水産動植物を集約的に育成し、収穫する事業をいいます。

注：この資料の数値は概数であり、確定値については、平成22年3月刊行予定の『第56次鹿児島農林水産統計年報』に掲載します。

### 【関連リンク】

水産施策関連ページ

<http://www.jfa.maff.go.jp/>

農林水産省公表の水産関係統計調査結果

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/index.html>

分野別分類データは「水産業」に分類しています。

### 問い合わせ先

#### 本統計調査結果について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部  
生産流通消費統計課 統計管理官

T E L : ( 直 通 ) 099(222)7546

F A X : 099(224)1501

#### 農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部  
統計企画課 企画・分析係

T E L : ( 直 通 ) 099(222)7523

F A X : 099(224)1501